

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892500182		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホーム来夢の杜大宮 ユニット名 ( さざんか )		
所在地	茨城県常陸大宮市野中町3050-1		
自己評価作成日	令和 元 年 9 月 26 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>■入居者様の想いと向き合える職員を育てる研修体制</li> <li>■全職員が一丸となって、入居者様のQOLの向上に向けて取り組んでいる</li> <li>■理念の意味を実践できるチームの実現に向け一歩一歩前進しているチーム</li> <li>■職員が明るく協力体制が構築できている</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoCd=0892500182-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoCd=0892500182-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモス水戸ビル4階
訪問調査日	令和1年11月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は医療機関との連携により、利用者にはなるべく薬に頼らないで穏やかに過ごせる支援に努めている。利用者が楽しめるようにコンビニの移動販売車の受け入れや、希望する食事を提供するなどお楽しみ献立の日を週に1度設定するなどしている。また機械浴が出来る浴室を備え、車いすの利用者も安心して入浴できるようになっている。</p> <p>代表者は職員研修に熱心であり、職員は毎日の昼礼で代表者から勉強会や指導を受けて学んでおり、より良い支援が提供できるように励んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ul>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念カードを常に携帯し、昼礼等でも理念を必ず復唱し、職員同士が共有し合う体制をつくっている。また、ワンポイント研修も昼礼の中で行い、様々な支援が理念のどの部分につながっているかを話している。例えば離脱行動に対し以前はすぐに行動を制止する声掛けであったが、現在はすぐに止めず見守りを行い、必要に応じて一緒に外出する等、理念の「高齢者にとっての望ましい適切なケア環境」の達成に向けて全職員が取り組んでいる。	事業所独自の理念を事務所に掲示し、昼礼で唱和して職員間で振り返りを行っている。地域とのふれあい、つながりが持てるように心がけている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方と出勤や退勤時に顔を合わせた時は必ず挨拶している。また、地域の行事である「ひな祭り」や「野中祭」、「グリーン大作戦」、「敬老会」へ参加し、周囲の方々との交流の機会を確保するよう外に出かけている。6月より開始したセブンイレブン訪問販売も地域住民の方々が利用できる体制となっている。	自治会に加入し、回覧板を回しに散歩をしながら近所の人と挨拶を交わしている。事業所に来るコンビニの移動販売車を、地域の方々と一緒に利用している。公民館の敬老会へ参加している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在セブンイレブン移動販売が2週間に1回来ているが、地域の方も利用できるような体制をつくっている。いつも買い物に来る方の安否確認につながっていけるよう今後も取り組んでいく。以前より離脱行為がある方と一緒に外を散歩することによって、徐々にではあるが認知症の理解につながっていると考えられる。8月に無断外出があったが、地域の方はしっかりと確認していたので、どの方向に移動したかを教えていただけのですぐに発見できている。この体制を地域での捜索態勢につなげていけるよう取り組んでいく予定である。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容や日常生活の様子だけではなく、事故報告や苦情、内部研修や事業計画等についても報告し、参加者から助言を伺って、事業運営に活かしている。また、災害時(水害)の対応方法について話し合い、当事業所は高地にあるので避難は特せず、建物内で様子をみた方が良くと結論がでている。	事業所に来るコンビニエンスストアの移動販売車を、近隣の方々も利用できるようにする提案を委員から受け、来所日を確認して、回覧版で周知し、地域住民も定期的に利用できるようになり 喜ばれている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常陸大宮市の担当職員とは、日ごろから連絡を密にをとり、運営推進会議及び身体拘束適正委員会委員にも就任していただいております。会議内だけではなく、運営上課題となった人材確保やケアの質向上、運営等についても適宜アドバイスをいただくなど協力関係を築いている。	管理者は市役所を訪問し、事業所の情報提供を行なっている。市内のグループホームが集まり、勉強会を開くための相談などを市の担当者で行なっている。生活保護受給者の利用者を受け入れており、市担当者の定期訪問がある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修で身体拘束をテーマとして開催している。その他にも魔の3ロックについて自事業所内でつながる可能性のある関わり方にも意識を高めるよう会議内でも話し合っている。帰宅欲求への対応についてもすぐに静止せず、両ユニット間で見守りのできるよう協力体制を整えている。昼礼で認知症ケアのワンポイント研修を開催しているため、BPSDの受け止め方にも「出た方がよい」、「それだけ元気がある」、「行けるんだったら行った方がいい」と変化がみられるようになっていく。	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度、運営推進委員会と同時開催している。職員に身体拘束についての意識アンケートをとり、施設長が回収後分析して課題を抽出し、職員の勉強会の内容に反映させている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待をテーマとした職場内研修を開催し知識を深め、また意識を高められるよう取り組んでいる。不適切なケアについても共通の認識を持つよう会議内で話し合われている。体のあざを確認した時も見過ごさずどの場面であざができたのかを話し合い確認し合っている。その結果に応じて介助方法の再検討も話し合われている。昼礼でのワンポイント研修でも虐待防止について伝えられているので、チーム全体の意識は向上していると思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に権利擁護のパンフレットを配置している。また、職員倫理綱領を玄関に掲示している。権利擁護や成年後見人などについても高齢者虐待防止と併せ職場内研修で開催し知識を深めている。私たち介護職員は権利を擁護する立場であることをワンポイント研修にて伝えられることで意識が高まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不明な点があるときはいつでもおこえをかけたいただけるようにいつも伝えている。また、入居や解約の際に契約書や重要事項説明書を説明する中でも不明な点の有無を確認しながら行っている。また、ケアプランの立案や見直し前に移行の確認も行っている。入居後の介護報酬改定等の際にも、入居者・契約者に対して説明を行い、理解を得て同意を頂いている。また、ご家族から質問があれば上司にも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度法人による家族アンケートを行う他、玄関に意見・要望箱を設置し、運営や日常生活に関しての把握に努め、事業運営に活かしている。また、ご家族が来られた時に気になることが無いかなど尋ねるようになっている。運営推進会議内でも意向の確認は行っている。定期的に好みの食べ物や同い昼食を提供できるようにしている。外出の希望もできる限り沿えるような支援提供体制をつくっている。病院受診時の処方についても本人の意向を確認している。セブンイレブンの訪問販売でも好きなものを購入できるように支援をしている。	玄関に意見箱を設置するとともに重要事項説明書に苦情受付窓口を明記し説明している。家族等へは「ご意見ノート」を配布して意見や要望を聞いている。年1回、法人による無記名の家族アンケートを実施し、結果を掲示板に貼り出し請求書に同封郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニカンファレンスを開催し職員の疑問や意向を具体的な体制づくりに反映できるようにしている。業務の中で業務改善に向けた職員と話し合う機会を設けており、また、毎月開催しているユニット会議内で、職員同士で意見交換を行い、意見や提案を聞き取り、管理者会議で事業運営に反映している。昼礼で出た職員の気づきもケアに反映できるよう取り組んでいる。	職員は毎月職員会議で取り上げてほしいことを用紙に記入して提出している。職員から出た意見は必要に応じ、代表者がとりまとめて管理者会議で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の希望に沿った就業ができる体制をつくっている。また、最初だけではなく、途中での形態変更等も柔軟に対応している。年度初めに、職員の職種や経験年数などを勘案して、職員に適した法人研修の参加計画を立て、やりがいやスキルの向上を図るための職員育成を計画的に行っている。また、資格取得に対する支援を強化している。また、自己学習への助成制度も設け、ケアの質だけでなく、モチベーションの維持・向上につながる体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職種や経験年数などを勘案して、個々の職員に適した研修が受けられるよう配慮し、職員育成を内部研修として計画的に行っている。また、法人で自発的な学習に対しても助成する制度を設けており法人全体での学習機会を作る取り組みができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中にある事業所に声をかけ、合同での研修会[11月28日：認知症高齢者の権利を擁護するために(高齢者虐待防止と身体拘束適正化に向けて)]の開催を予定している。法人内研修は職種や経験年数に応じた内容での研修を開催している。10月開催予定の学術大会に当事業所の取り組み(一事例)を発表する予定となっており、自事業所のケアを客観的に評価できる場も設けられてる。また、他事業所の取り組みを聞くだけでなく、ケアに反映していく中で疑問や不明な点があるときも速やかに確認できる体制ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談・調査を行い、入居者の生活状況を把握し、個々の意向やこだわりをくみ取り、入居者の生活の継続性が保てるよう努めている。また、困りごとやこだわり、不安な思いの共有を図っている。不安な時は話を伺い、ゆっくりと話を聞く時間をつくっている。出合い時に大切な挨拶の重要性も職員理解をして関わるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望のある方には、他事業所や市町村などと連携を取り合い、ご本人に施設見学を勧め、今後の生活の場所に対する不安の解消に努め、信頼関係の構築に努めている。面談時にも聞き取りを行っている。家族へのノートをつくり意見を聞くようにしており、また、来訪時生活状況を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前に困りごとご本人や家族の意向を伺い、必要とされるサービスをより効果的にするために、生活歴やこだわりを伺ってケアプランを作成している。例えば入所前に行っていた家事や畑仕事を一緒に行えるようサービス内容に取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を一方的に行っていたのではなく、会話をしながら作業をするといった同じ時間を共有している。例として、職員がは母親のような存在になることもあり、家族のように助けられる場面もある。時には友人の立場となり助け合う場面もみられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族という、本人からみると大切な存在であるからこそ、負担のない範囲で来訪していただけるようお伝えしている。敬老会では18名のご家族が来られ、同じ時間を共有している。ケアプランにおいてもご家族はチームの一員としての役割を担っていただいている。毎月のご家族への手紙も絆を大切にするための手段として位置付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人とのつながりの大切さを職員に伝えていっているので意識も高まっていると感じられる。クリーニング店や買い物等一緒に地域に出かけている。昔からの友人の面会や近所の家に行くなど以前の生活を断ち切らない支援が提供できるよう努めている。	入居時にアセスメントして情報収集し、把握している。好きなこと、得意なことが継続して生かせるように支援をしている。自宅へ外出したり墓参りに出かけたりしている。昔からの友人が会いに来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ入居者様同士の会話も楽しめているが、他入居者様とのコミュニケーション機会につながるような仕掛けをつくっている。また、リビングが一緒であるため、普段よりユニットに関係なく会話をされており、時には居室に遊びに行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族からの相談等には丁寧に対応できるようにしており、「よくやってもらっていた」や「こいいわ」等のお褒めの言葉をうけたことがある。退所時に何かあればいつでも連絡をいただけるよう伝えており、看取り研修の中でも退所後のフォローの大切さを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活状況や意向、こだわりを把握・理解できるよう、現在24時間シートを個別に作成している。日々の会話になかから意向を受け止め、実践できるよう取り組んでいる(入居者様の外食希望等)。意向を伺えないときにも、今までの生活歴などから意向をくみ取る努力をしている。	表情や仕草から思いを汲み取り、個人ノートに記録し共有している。日々の支援を通して意見や要望を聴いている。運動が好きな利用者にはラジオ体操や屈伸運動などを取り入れている。個人個人の介助方法を統一化し散歩をしたり役割を持つよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談にて暮らし方の情報を収集し、ケアプランに反映させている。また、フェイスシートだけではなく、日ごろの本人の言葉をしっかりと伺い、情報として終わらせるのではなく、日々の生活に活かせるよう取り組んでいる。職員には研修を通じて、その人らしい生活を継続することの重要性を伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の仕草や表情などから状態の変化に気づけており、また、ケース記録や職員同士の引き継ぎ、定期的なユニット会議等でも情報共有し、ご本人の健康な能力が活かされるようできること・できない事等日常のケアに繋げている。また、ケアの標準化が図れるようにシートを作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族、関係者などからも情報収集して、生活歴を活かした運動機会をつくっている。また、「好きなものを食べさせたい」や「外出したい」といった意向も計画に取り入れている。定期的なユニット会議内で計画内容の再確認と修正を行っている。モニタリングも事前の情報収集を行ったうえで担当職員と行っている。看護師や担当医の意見も反映し作成している。	支援計画の目標を達成できているか、個別に確認できる体制をとっている。24時間シートを活用し、利用者の意向や課題を抽出している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本半年で見直しを行っている。変化があれば随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄・入浴・食事量・水分チェックなどの記録や日々生活を送る中での気づきをケース記録や申し送りノートに記載している。また、ユニット会議内でも情報共有し、本人がより自分らしい生活が送れるような体制づくりに努めている。実際にサービス提供したうえで、評価を行い、状態に適した内容である場合は計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の催し物に参加したり、外出する機会を増やすなど、個々の意向や家族の意向に沿って、知人や地域の方々との交流に努めている。今年地域で開催された敬老会でもご友人の方と一緒に会を楽しまれていた。今後も交流を途切れさせないよう自宅へ伺う旨をお伝えし了承を得ている。また、セブンイレブンの移動販売もご本人への刺激だけではなく、地域の人との交流の場と捉えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段活動していた地域の中での散歩することで、付き添った職員に説明するといった役割作りにつながるよう意識している。個別外食や外出等の機会も作り、慣れ親しんだ風景や人とのつながりを通して良質な刺激を確保できるよう取り組んでいる。セブンイレブンの移動販売も地域とつながることによって、地域とのつながりを途絶えさせることがないよう地域に発信している。また、敬老会等の案内が届いており、今年は体調が優れず欠席となったが、積極的に地域とつながる機会をつくっていくよう事業所全体で取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前からのかかりつけ医への受診を継続できるようにしている。口腔内環境や痛み等の突発的な受診が必要な時は、事前にご家族に受診していた病院が無いか確認を行い、無いようであればこちらで探して受診し、その結果をかかりつけ医に報告するようにしている。必要に応じて情報提供書を病院に依頼し、情報共有を図っている。病院の変更が必要な時も家族やかかりつけ医と相談し、スムーズに移行できるよう取り組んでいる。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを説明している。受診の際には健康状態や排せつ状況等が記載された「パターンシート」を持参している。受診結果は個別ファイルに綴り、連絡ノートにもコピーを貼って共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃のちょっとした気づきを支援につなげるため、昼礼の中で話し合っている。今までユニット会議内で協議し、速やかに体制を構築できるよう、看護職員(情報提供や助言をもらう)と一緒にミニカンファレンスを適宜開催している。よりご本人が安全・安心して生活できるように個々の情報を共有し、体調の変化が見られた際に、すぐに相談・対応できる体制をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に入居者の状況を家族に伝え、対応についての意向を確認し、必要があるときは助言を行って、ご本人にとっての最善な対応ができるよう取り組んでいる。入院となった際も主治医にご家族の意向を伝え、必要な適切な医療を受けることができるよう配慮している。また、お見舞い時に状況を伺い、確認事項(服用方法等)に答え、環境変化による混乱を最小限に止められるようにしている。退院時も担当看護師や医療相談員より事前に情報をいただき、スムーズな退院ができるよう、施設内の環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化や終末期に関する説明と同意を得ている。医療機関との連携を密にし、職員研修など体制づくりにも力を入れ、重度化や終末期に関する方針をご家族と話し合うようにしており、事業所で提供できる支援内容を明確にしたうえで、施設に戻り生活するか否かを話し合い決定している。担当医や往診の担当医とも話し合い、事業所で何をできるか、何に中止していかなければならないのかを具体的に決め、ケアプランに反映させている。	重度化対応に関する指針があり、契約時に説明して同意書を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。職員は外部研修に参加するとともに、内部研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常の早期発見につとめ、緊急時の対応に備えられるよう、必要に応じて病院やグループホーム看護師から助言や指示を受けている。今年度、普通救命講習会も内部研修で開催を予定しており、定期的な知識の取得や手技の再確認につなげている。事業所内での職員に対する指導は、判断するのではなく、普段となんか違うといった気づきが大切でできることや判断は病院で行っていただけのことを伝えていく。何かあれば管理者にすぐに相談できる体制もつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を立て防災訓練を行うとともに、管理者を中心に災害時には、必要に応じて避難できる体制を整えている。また、運営推進会議等でも話し合っており、水害時は避難するのではなく、事業所内に待機した方が安全であることを確認している(この地区は高地にあると助言有)。そのため、備蓄品も準備している。また、連絡網が機能しているかの確認も行っている。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品を、一覧表を作成して管理している。近隣住民の協力を得るまでには至っていない。	住民参加を呼びかけ、協力を得ることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守るとは人権擁護の観点からも大切なことであることや時としてBPSDIにも影響すると伝え、その重要性を認識できるように取り組んでいる。日頃から職員同士で不適切な声掛けとならないよう注意し合い支援を行っている。例えば、排泄の声かけはご本人理解できる声掛けとし、周囲に気づかれないように配慮し、排泄パターンシートでも個人の排せつパターンを見極め、むやみに声をかけないようにしている。あたりまえのことであるが、トイレの扉の開閉に関しても意識をすよう職員に伝えている。昼休みにて排せつ介助への配慮の重要性も伝えている。	トイレの扉の開閉の際や、声をかける際の言葉遣いなどに配慮している。入社時に職員は守秘義務を守る等の規定を学び、プライバシーに関する内部研修を年1回行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より迷ったり、混乱するような入居者様は2つの選択肢にする等配慮し、安易に職員の判断で良いとするのではなく、今ある力を活用してできるだけ自己決定できる環境をつくっている。小さなことだが御膳を下げることも「下けてもいいですか」といかけを意図している。定期的開催している好みの献立も入居者様の希望のものを提供している。買い物に関しても希望の場所へ行けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの習慣や早起きが苦手な人は起床時間をご本人に適した時間にしている。食事の時間も同様に柔軟に提供できるようにしている。認知症の疾患別の特徴に配慮するだけではなく、人として生活することの大切さを職員に伝えており、個々の生活パターンに合わせ、画一的にならないよう一日の生活を組み立て、ご本人のペースに合わせたケアを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意向を把握し、時には家族の協力を得ながら、慣れ親しんだ美容室でのカットにも対応できるような体制をつくっている。日頃から身だしなみを整える事の大切さを伝えており、お化粧もつくっている。また、2月に一度のカットの日に好きなカットやヘアカラー、パーマをすることでおしゃれが楽しめるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については一連の流れを共に行うことで、時間と空間の共有ができ、会話がうまれることでより楽しい食事にすることができると職員は意識している。料理の下ごしらえや盛り付け、片付けなどお手伝いいただき一緒に行動しており、食事状況に合わせて一緒に食べる環境を整えている。入居者個人個人の嚥下・咀嚼状態を把握し、状態に応じた食事形態で提供している。	嗜好調査を定期的に行なって、好きなものを食べられるようにしている。お楽しみ献立日があり、週1回順番で、希望の献立が食べられる。近くのファミリーレストランでお茶を飲んだりケーキを食べたりしに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ここに合わせた形状や好みに合わせ提供し、記録にも残している。また、食事が進まないときは代替品(好きな食べ物やゼリー等)を提供している。疾病に対する対応も可能な限り医師からの指示を受けて量や糖質制限を実施している。塩分は一日5g以下を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一回訪問歯科診療を受けるとともに、歯科医師による口腔ケアの指導を受け、一人ひとりの口腔状態を把握している。義歯洗浄や嗽も立ち上がってできる入居者様は、その行為を行えるよう支援している。当たり前のことだが、義歯洗浄の重要性も理解しているので入居者様の状況に応じて実施している。舌苔への対応もはちみつ提供で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄することの重要性を職員は理解しており、ご本人の仕草から尿意便意があることを確認しご案内できている。トイレ内でもプライバシーの確保で排泄しやすい環境作りを行っている。また、パターンシートに記述し、個々の排泄パターンを把握し、入居者に合わせて支援を提供している。時間でご案内によって汚染が無くなっていることを職員は喜んでいる。	パターンシート(排泄チェック表)からそれぞれの排泄パターンを把握して、声掛け誘導し、できるだけトイレでの排泄を支援している。紙おむつからリハビリパンツへ リハビリパンツから布パンツに改善した利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に下剤を使用せず、乳製品の提供や必要に応じて腹部マッサージを行っている。毎朝のラジオ体操や歩行運動を行い、自然な排便に繋がられるよう努めている。リライを引出す会話にも心がけており、リラックスすることで副交感神経を優位にし排便しやすい環境作りにも取り組んでいる。また、水分補給を意識するだけでなく、寒天ゼリーを提供し便秘予防につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後など個々の入浴時間のこだわりに合わせてタイミングをはかり、好みのお湯の温度や入浴剤にも配慮して入浴を楽しんでいただいている。日時の希望にもできるだけ対応できる体制をつくっており、受難な対応ができることで入居者様の楽しみの一つになるよう心がけている。	入浴は基本週2回となっているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。しょうぶ湯などで季節を感じられるよう工夫している。入浴を拒む利用者には、時間や声をかける職員を替えるなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所で時間を設定するのではなく、個々のライフスタイルや生活習慣に合わせている。ご本人から話されることが難しい入居者様も、その日の体調等の状況を踏まえ、声掛け時の表情から読み取り対応するようにしている。個々の状態に応じて寝具にも配慮しており、姿勢の保持にもチームで取り組み安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、主治医に内服薬の確認を行っている。副作用も教えていただき、事業所で全職員が同じ判断ができるよう周知している。内服の調整を事業所で可能と指示を受けた時は、看護師と話し合い実施している。処方内容変更時も病院だけでなく、薬局からも情報収集し職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の用意や調理、掃除、洗濯など入居者個々の身体状況に合わせ、一緒に生活を楽しめるよう支援している。また、嗜好品に関しては主治医と連携を取り、ご本人の思いを中心において実現できるよう病院と連携を図っている。入居者様個人個人の楽しみごとには、カラオケやお手伝い等対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先やウッドデッキに出て風にあたり、のんびりと一人の時間を過ごせるよう支援している。また、入居者本人の希望を伺い、季節に応じてドライブや花見、紅葉狩りや買い物に行くなど外出支援を提供している。また、地区で開催された敬老会にも参加し、友人と楽しくすごされていた。大切なのは外出をする目的がたっせいされたかだと考えているので、個々の意向を確認しながら進めている状態である。	気分転換をするためや、筋力体力の向上のためなど、個々の利用者の目的に応じて、近隣を職員と散歩している。テラスで利用者同士がお茶会や外気浴をしている。近隣の散歩やスーパーマーケットに買い物に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	無くすから持たない方がよいではなく、入居者様個人個人の持っている力に合わせた支援を提供している。受診や買い物時等ご自身でやり取りができるように見守りを行っている。お金を所持することの大切さをご家族にも伝えており、理解を得て支払う際に入居者が金銭を所持したり、使えるよう支援して		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホームに入所後もつながりを保ち続けられるよう、ご本人からの電話をしたり、手紙を出すことの必要な部分に支援を提供している。ご本人の思いを大切にし、形にすることの大切さを職員は理解しており、良質なつながりを維持できるよう、「良い出来事」をご家族に伝えられるよう取り組んでい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感だけではなく、生活感も感じられるよう心がけている。季節の花や生け花を飾るだけではなく、メダカを飼っていることで雰囲気明るくなっている。トイレの匂いにも気を付けており、環境整備(植物も飾っている)することで、以前より匂いが軽減している。温度にも気を付けており、自然を感じられるよう風や日差しを入れる等季節を感じられるような環境作りに努めている。音や職員の声のトーンにも気を付け、不快な環境を作らないよう心がけている。また、リビングなどに雑誌等を置き、いつでも見られるようにしている。	木造で木の温もりが感じられる。玄関の前は木の格子戸がある。居間兼食堂のユニット入り口はガラスのドアとなっており、開放的で職員の目が届くようになっている。窓が大きく、観葉植物が置かれ、明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りと監視は違うことを職員間で共有している。ソファを設置することで、職員の動きが視界に入らず、ゆったりとした時間を過ごしている入居者様もいる。気の合った入居者様同士での会話も活発にできており、職員のさり気ない見守りができつつあると感じられる。玄関に行き来する入居者様も、以前より落ち着かれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、使い慣れた馴染みある家具を持ち込んでいただき、居心地の良い居場所づくりをしている。また、入居してからも家族や契約者の協力を得ながら、ご本人の身体状況の変化に対応している。できる限りご本人が落ち着ける環境づくりに向け、自由に模様替えができるよう支援している。	なるべく使い慣れたもの、好みのものを持ち込んでいる。布団を好む利用者は、カーペットを敷いて布団を使用している。居室から中庭のウッドデッキに出入りができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は入居者の身体能力を理解し、安全かつ自立した生活が送れるよう、トイレや居室のサインや設えに配慮して環境を整備している。また、わかりやすさだけではなく、「探そうとする」、「知ろうとする」とこと自身がご本人のできることと捉えている。そのご本人の力を信じ、見守りができることも大切な環境作りであると考えている。昼礼の申し送りの中でも入居者の身体状況や現状を共有している。今ある環境を大切にしており、生活し慣れた環境を安易に変えることの無いよう努めている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム来夢の杜大宮

作成日 令和 2年 1月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策として避難訓練を実施しているが、運営推進会議にて実施状況を報告しているのみで近隣住民の協力を得るまでには至っていない。	避難訓練への近隣住民に参加していただき、実施状況の理解だけでなく協力を得られる体制を構築する。	運営推進介護の中で、今回の外部評価結果の内容も踏まえ、火災時の協力を得られるよう、避難訓練に参加していただく（11月20日の運営推進会議内で内容をお伝えし、地域代表者より理解を得られ、現在協力を得られる体制を構築中）。	5ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。